

県初の東北税理士会長

税理士法人ピアツーピア代表
木口 隆氏



30数年前の夏。私は2年続けて八丈島に2カ月間居りました。港の食堂で“板長”として海水浴客に軽食を出していたのです。今考えるとなんと無謀がことをしていたのか。料理はまったくの素人で、港に着いたその夜、島の本屋で料理本を購入しラーメンのスープの作り方を頭に叩き込み、翌朝厨房に立っていたのですから。客を乗せた船が接岸する午前8時から翌日の午前2時まで働きました。月収は30万円。きつかったけれど楽しい思い出で、10年ほど前に一緒に働いていた仲間と食堂を訪れました。

大学在学中に税理士になろうと決意し、卒業後も就職をせずにアルバイトで生活費や専門学校の学費を稼いでいました。八丈島の仕事はそのひとつで、ほかにさまざまなバイトに就きましたが、現在の仕事に役立ったのが(株)矢野経済研究所(本社・東京都中野区)での企業調査でした。この研究所は日本の市場調査会社のパイオニアであらゆ

る業界の情報を収集・分析。マーケティング資料を作成し提供しています。私はその調査マンの1人として企業経営者に業況、見通し等の収集に当たりました。数多くの経営者とのやりとりを通して業界の実態、経営者それぞれの考え方、コミュニケーションのノウハウを学ぶことができました。いわば私の修業時代です。

山形に帰り1993(平成5)年に税理士登録。2004年に故渡辺亮一氏と税理士法人ピアツーピアを設立しました。法人名はどんな意味、とよく聞かれますが、パソコン用語で対等を意味しており、「クライアント(顧客)と対等な関係でありたい」という思いを込めました。

そうしてこのたび、2,473人の会員からなる東北税理士会会長を仰せつかりました。山形県では初めてで、宮城県以外から選出されたのは2人目ということだそうです。本来ならば会員が最も多く仙台市に事務局を置く宮城県から選ばれるのでしょうか、常務理事時代に調査研究部会長を務め、全国各ブロックの税理士が一堂に会した公開研究討論会開催を担当したことで評価をいただいたのでしょうか。税理士の役割と納税について正しく理解していただくための無料相談、租税教室、租税フォーラムの充実を図るとともに、消費税の単一税率維持、中小法人への外形標準課税制の不適用といった税制改正への建議など、地方経済の現状を踏まえ提言していきたいと考えています。

私が心にかけているのは、これまでの経験で得た人間関係です。申告書作成といった税理士の仕事のコアな部分はもちろん大事ですが、5年後、10年後を想定した事業の在り方について、複数の選択肢をクライアントに提案していきたいですね。信頼されるパートナーでありたいと決意を新たにす次第です。

(山形商工会議所議員)



今月の表紙 「山形まなび館」(本町)

ふるさと画家・上野啓太氏作。「わが町」をテーマに、イラストでまちおこし運動を行っている「やまがたマーチング委員会」(事務局・(株)大風印刷)提供。